



Sennheiser Japan

新製品発表会

Tokyo, 13 March, 2024

Sennheiser
Group



AMBEO



MERGING





本日の流れ

- プレゼンテーション (30分)
- 試聴 / 製品撮影 / Q&A (30分)

Self Introduction

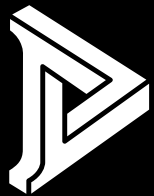


- 吉原 理 (よしはら おさむ)
- 所属：PROビジネスユニット
MIカテゴリー担当、EC担当
- 役職：セールスマネージャー
- ゼンハイザー歴2年 (入社2022年)
- 前職：オランダのモビリティカンパニーの
Ecommerce Specialist
- 3歳と0歳の2児の父





The Future of Audio



AMBEO



HISTORY



HISTORY

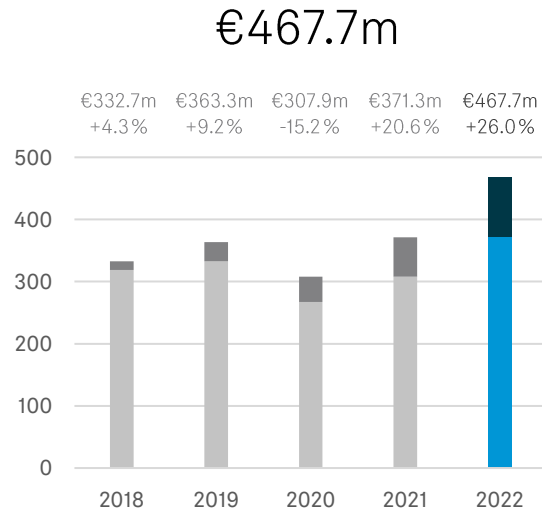
- 1945 初代ゼンハイザー博士 研究所を設立
- 1958 ゼンハイザーエレクトロニックに社名変更
- 1982 2代目ヨルグ・ゼンハイザー教授 CEO就任
- 1988 海外進出を開始
- 1991 [Georg Neumann](#) グループ加入
- 2005 Klein + Hummel を買収
- 2007 ゼンハイザージャパン設立
- 2013 3代目ダニエル & アンドレアス・ゼンハイザー共同CEO就任
- 2019 [Dear Reality](#) グループ加入
- 2022 プロオーディオビジネスに注力
(コンシューマー事業をSCHに譲渡)
- 2022 [Merging Technologies](#) グループ加入
- 2025 設立80周年



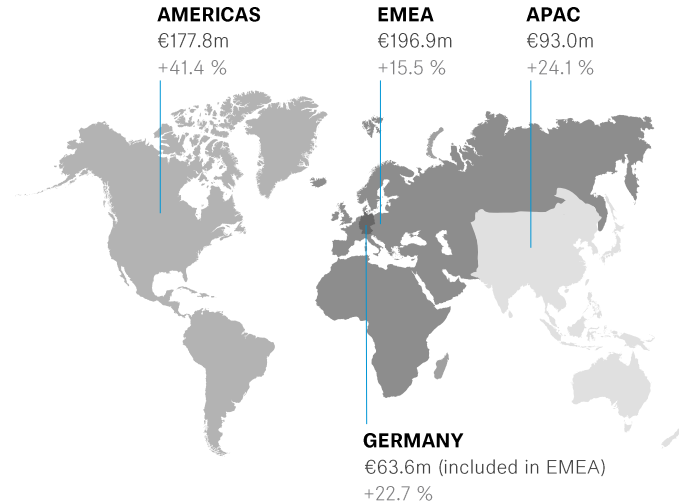
About the Sennheiser Group



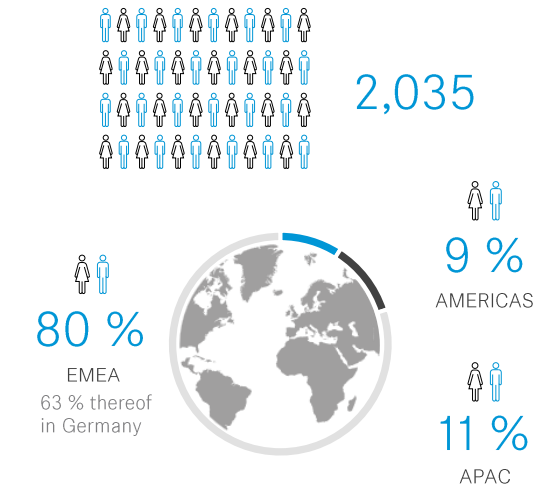
REVENUE PROFESSIONAL BUSINESS



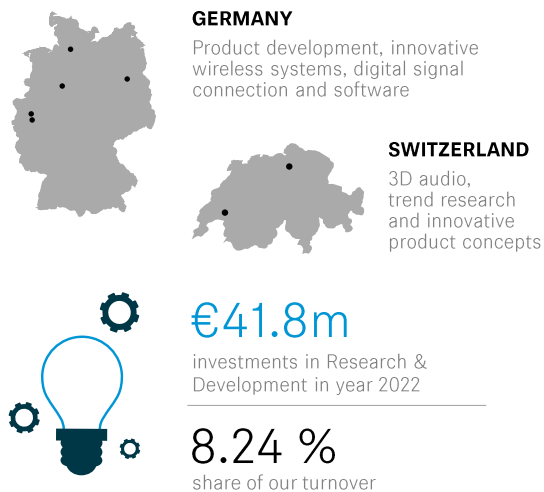
REVENUE BY REGION



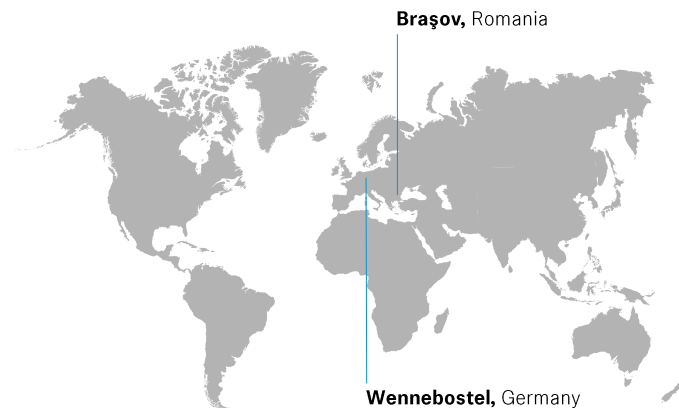
EMPLOYEES



RESEARCH & DEVELOPMENT



PRODUCTION SITES

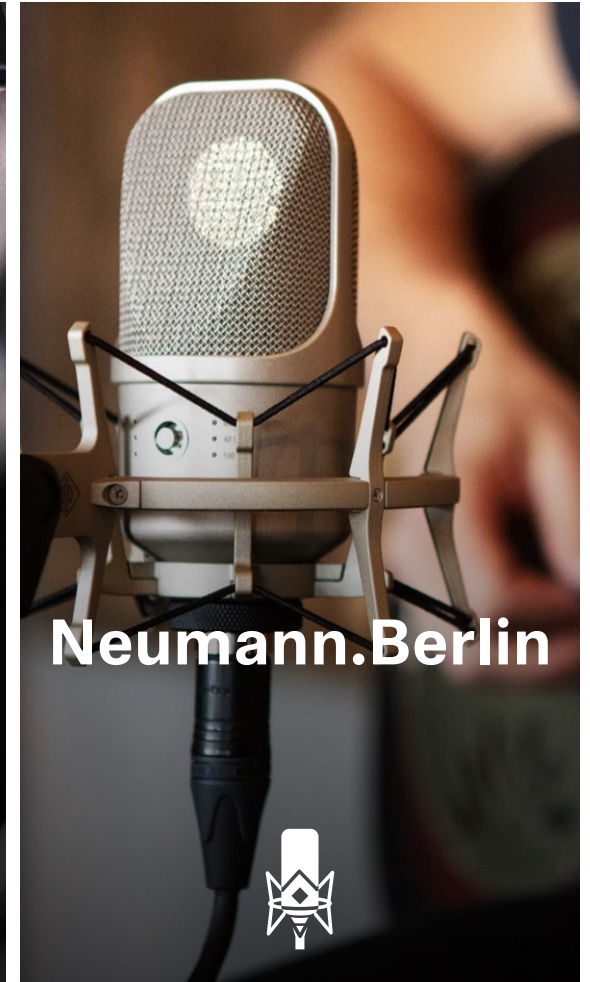
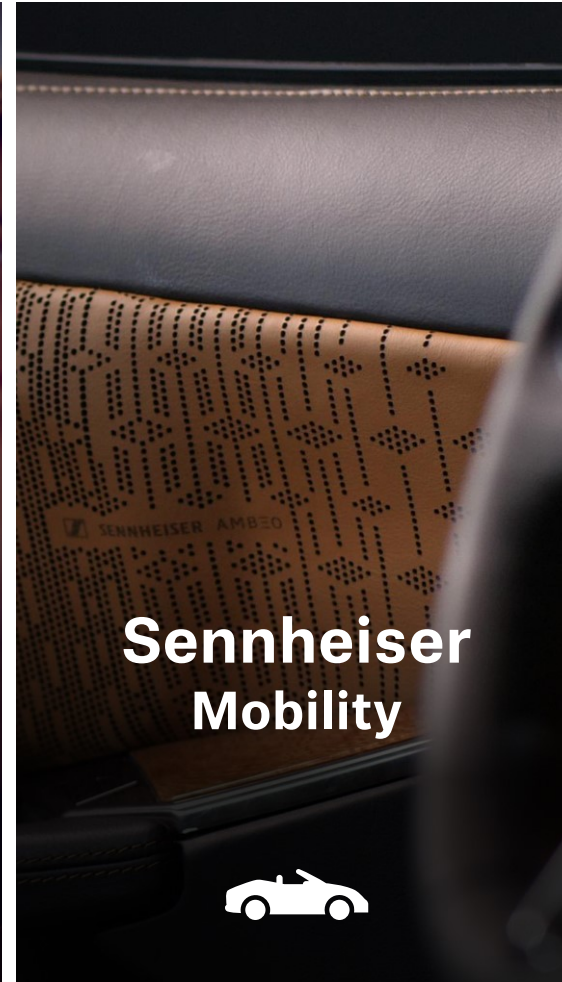
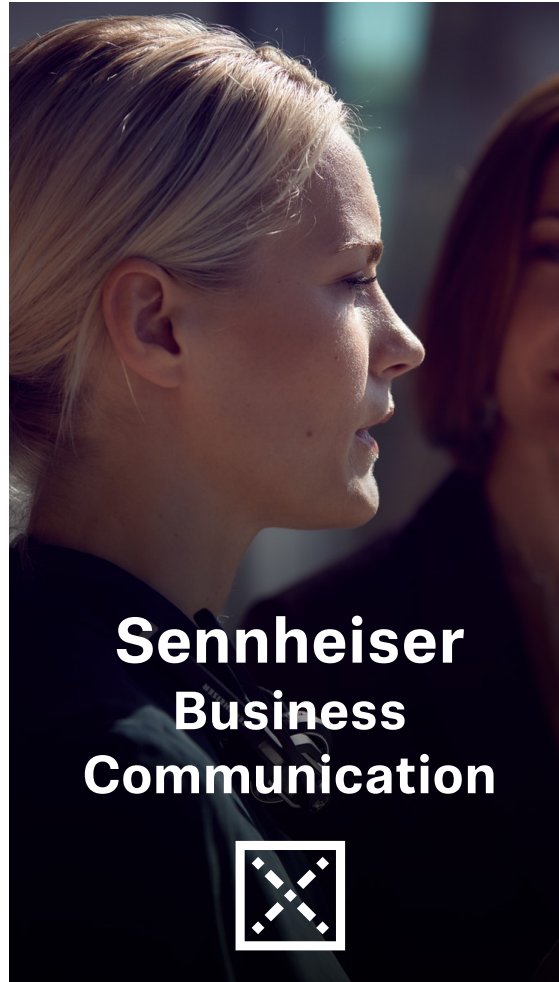


BRANDS



Sound Experiences

for stage, meeting room, classroom, studio, and on the road



Sennheiser Professional Audio
Professionals trust us



Ed Sheeran エドシーラン

キャリアスタート時よりゼンハイザーのマイクロホンを愛用
大規模なU.S.ツアーでもDigital 9000を使用



**Professional Audio
Professionals trust us**



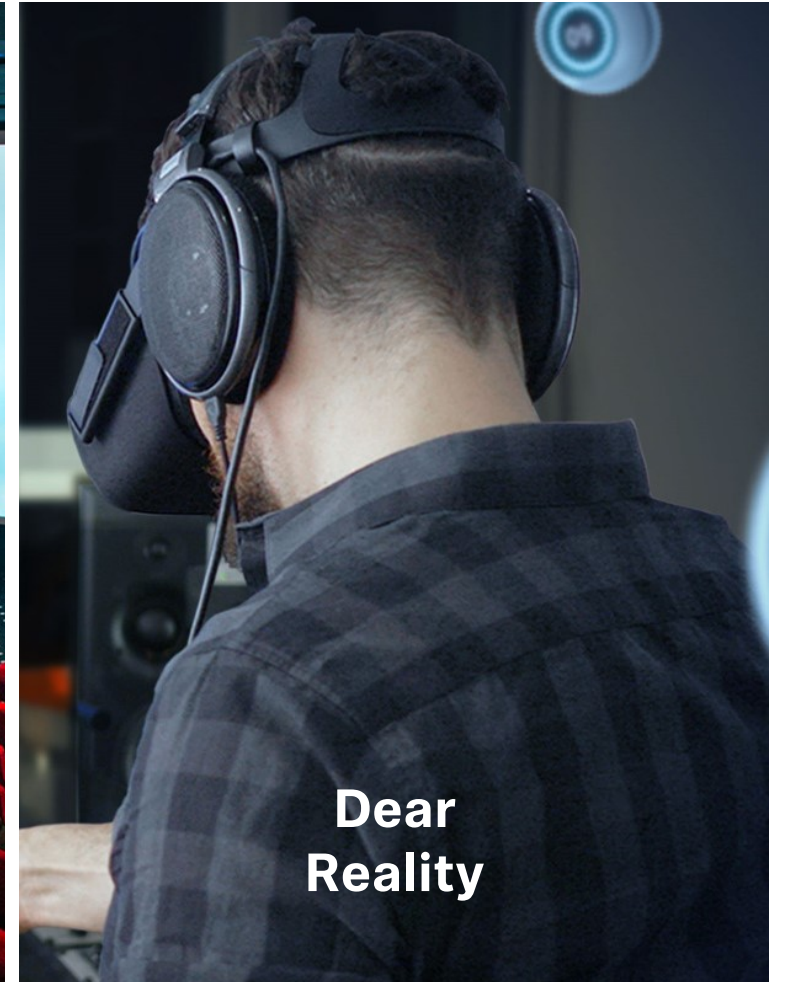
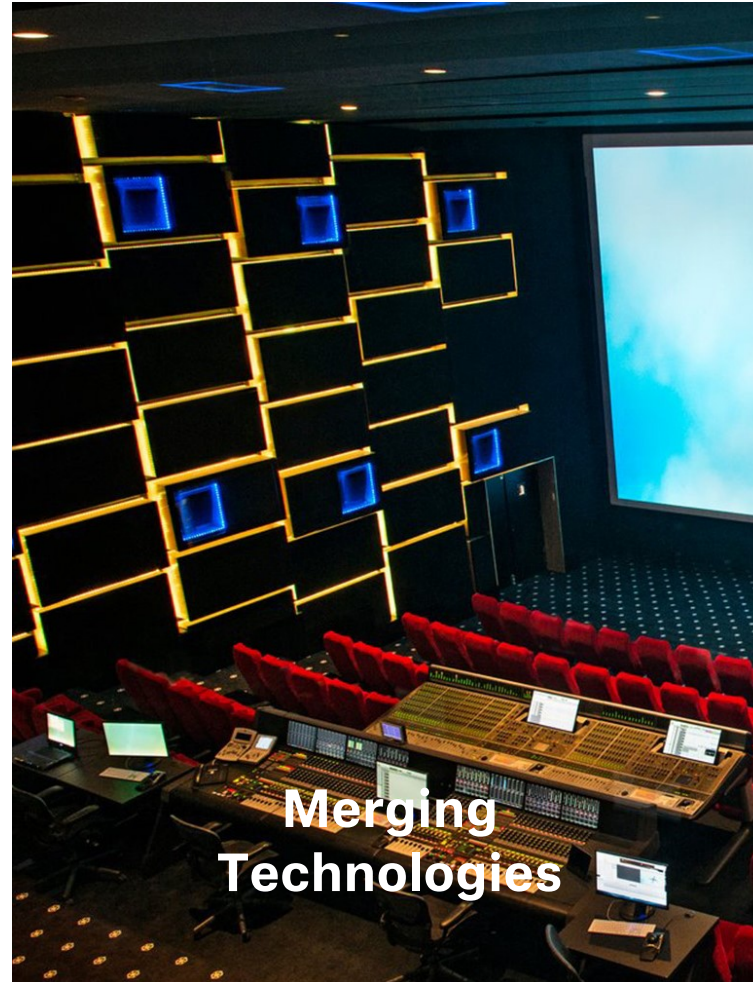
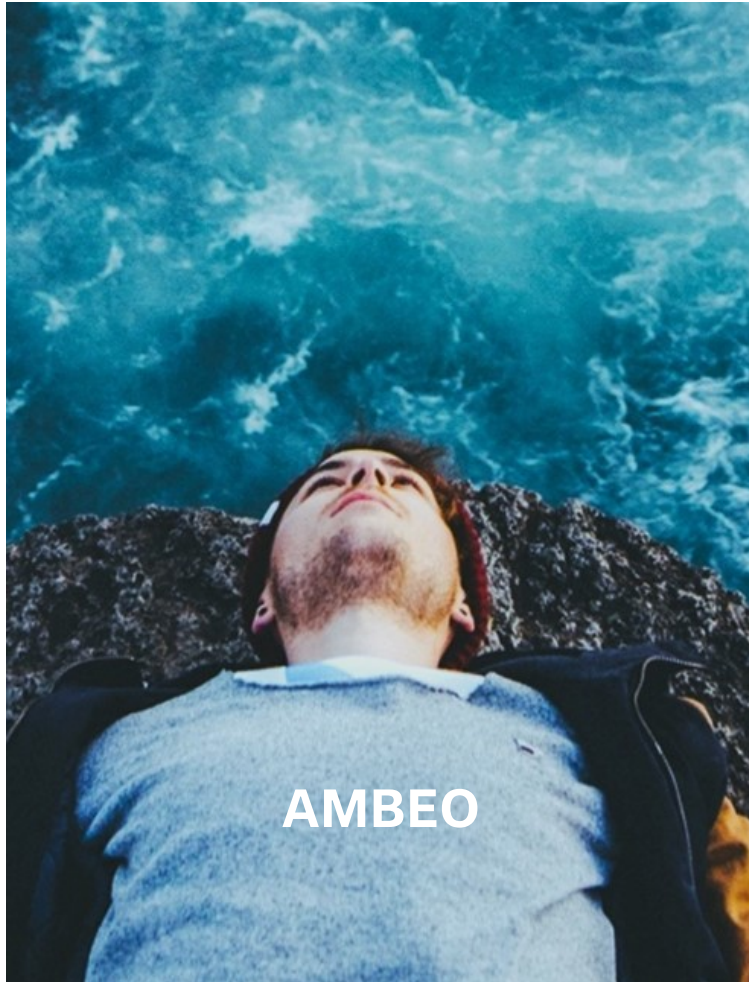
Rihanna リアーナ

スーパーボウルのハーフタイムショーで

カスタム仕様のDigital 6000 で圧巻のパフォーマンスを披露



Strong Brands for the future of the audio world



1945

1968



HD 414 世界初のオープンエアヘッドホン開発



1945

1968

1988



HD 414

モニターヘッドホン HD 25-1 発売



Sennheiser Professional Audio
Industry standard headphones for DJs around the world



Where **clarity**
meets **performance.**

HD 25

Professional monitoring headphones
that perform exceptionally well in
loud environments.





HD 490 PRO

1. Product Story
2. Product Overview
3. User's feedback





Product Story



音楽制作の環境は大きく変わりました



▶ Computers



▶ Workspaces



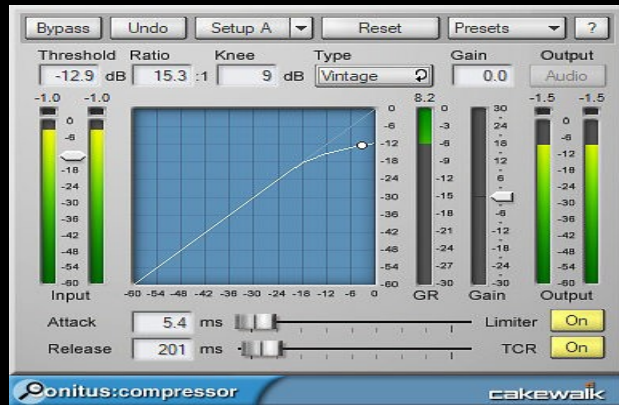
▶ DAWs



音楽制作の環境は大きく変わりました



▶ Plugins



▶ The Recording Process



▶ The Customer(s)



Bob Clearmountain 2007



Skrillex 2023



新たな製品開発のアプローチを実施

- 数千ものオンライン製品レビューを分析
- 欧米・アジアのプロユーザーへのインタビュー
- 音質、品質、使いやすさなど意見を開発に反映

日本でのユーザーテストは合計で15人が参加



モニターヘッドホンも変化が必要



WANTED : 快適さ

長時間でも疲れない設計



WANTED : 汎用性

1台で制作とミックスの二役



WANTED : 耐久性

長く使える・洗える・交換できる



HD 490 PRO 製品概要動画URL

https://youtu.be/oVHsHrrPjFQ?si=cIY2Zxa4izWV_DY7



Product Overview

革新と確信、
2つをあなたに





HD 490 PRO

極めてワイドで立体的なサウンドステージと
軽量、コンパクト、堅牢性がパーフェクトにマッチした、
革新的なオープンバックデザインにより、
プロユーザーの**確信**に満ちた音楽制作をサポートします。



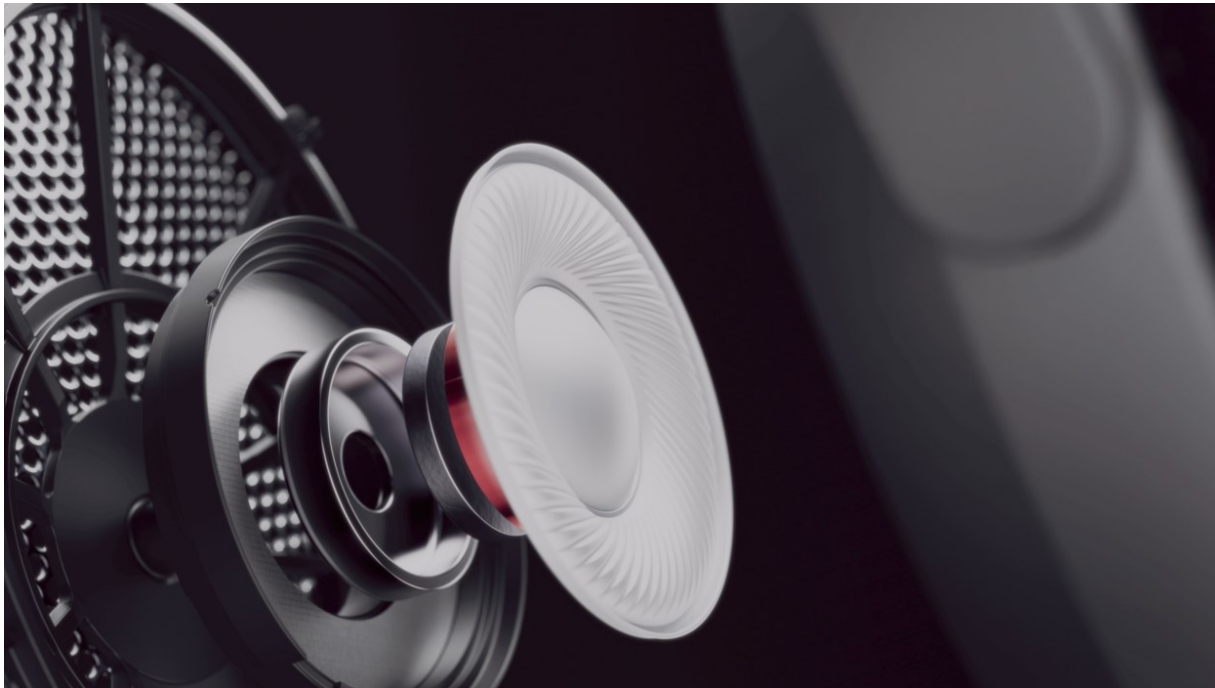
1. 革新的なオープンバックデザイン

- 傾斜をつけたイヤークップデザイン
- トランスデューサーの配置を新しく最適化
- 安定したリスニング体験を提供

リファレンス・ヘッドホンとしての確信を実現



革新的な低域用シリンダー



- 最先端のネオジム磁石
- 革新的な低周波シリンダー
- 正確かつクリアーな低音を生成



革新的なオープン・フレーム・アーキテクチャ



- THDを低減し、共振を最小限に抑え、オーディオの精度を向上
- ハニカム構造による堅牢性と開放感
- ヘッドホンの耐久性を高めるだけでなく音響体験にも深みを加える



2. 革新的な快適性

- エルゴノミクスに基づいた精密な設計
- 圧迫感をなくし最高の柔軟性と260gという軽量化を実現
- 画期的なイヤーパード

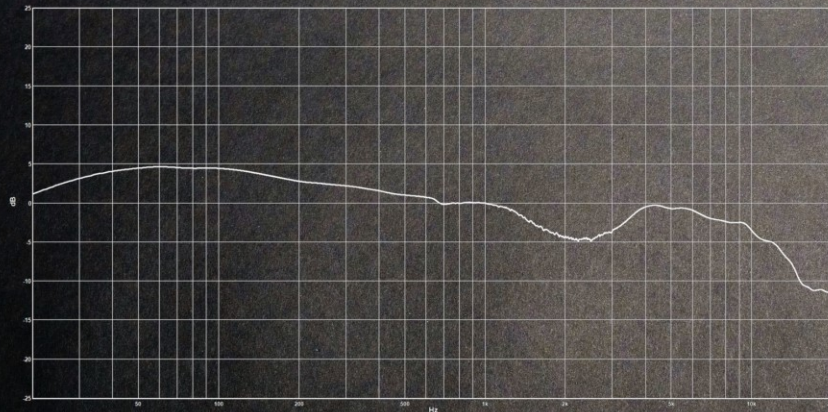


画期的なイヤーパード

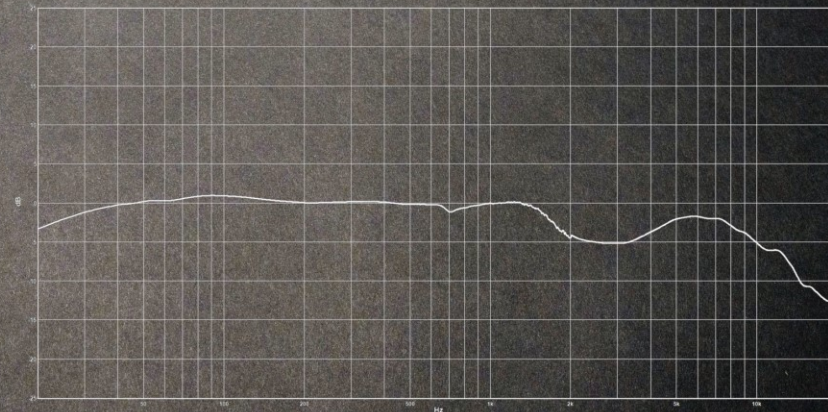
- 長時間のミキシングと音楽制作に適した2種類のイヤーパードが付属
- サステナビリティと耐久性を考慮し、洗浄と交換が可能
- 独自のイヤーパード技術により耳の疲労を軽減



Producing Pads



Mixing Pads



ペロア素材のプロデュース用

ファブリック素材のミキシング用



3. 音楽制作での決断に確信を

リファレンス・オーディオを提供するためには、ヘッドホンが人によって同じように聞こえることが重要です。

そのため、HD 490 PROでは、ヘッドホンを装着する際のばらつきを可能な限り小さくしました。



新開発のヘッドバンド

- 異なる頭のサイズでも同じ側圧になるように設計
- 誰でも同じ音響効果を実現
- 新開発の特許技術



メガネのコンフォートゾーン

- メガネのアームがイヤーパーッドに沈みやすいよう設計
- かけている人とかけていない人で同じ音響効果
- 既存の特許技術



アクセシビリティ機能

- 点字ガイド付きイヤークップ
- イヤークップの内側に大きくL/Rを表示
- 新規特許申請中



- 特許取得済みのケーブル・コイル構造
- ケーブルが伝搬するノイズを遮断し、クリアな信号を実現
- 極めて忠実でダイナミックなオーディオ再生を実現

- ミニXLRイヤホンジャック
- 左右どちらでも着脱可能
- どのようなスタジオ構成にも簡単に適応



- Dear Reality の革新的な **dearVR MIX-SE** プラグインを同梱
- スタジオの外でもミキシングが可能に

PLACE YOURSELF IN THE SWEET SPOT OF YOUR ULTIMATE MIXING ENVIRONMENT

DEARVR MIX-SE TURNS YOUR HD 490 PRO INTO A REFERENCE MIX ROOM WITH CAREFULLY DESIGNED ACOUSTICS



Experience mixing with your **HD 490 PRO** headphones and monitor your session in multiple virtual world-class mix rooms or common listening scenarios - all based on Dear Reality's advanced spatial audio technology.

AAX / VST3 / AU plugin suited for all DAWs

YOUR ACTIVATION CODE

DEARREALITY
POWERED BY
SENNHEISER
AMBEO

パッケージ内容



1. HD 490 PRO本体
2. 1.8 m ケーブル
3. 6.3 mm 変換アダプター
4. ミキシング用イヤークッション
5. 制作用イヤークッション
6. dearVR MIX-SE



60,000円(税別)

1. HD 490 PRO本体
2. 1.8 m ケーブル
3. 6.3 mm 変換アダプター
4. ミキシング用イヤークッション
5. 制作用イヤークッション
6. dearVR MIX-SE
7. プレミアムケース
8. 3 m ケーブル
9. 追加ヘッドバンド用パッド



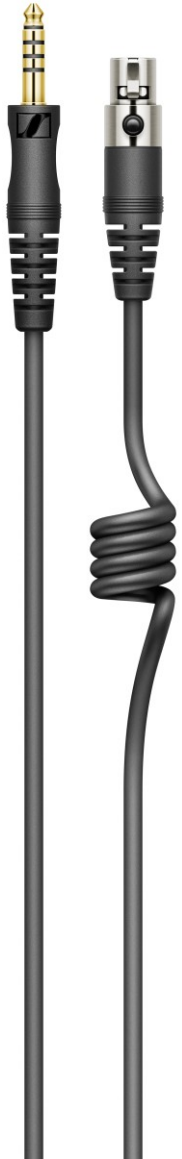
70,000円(税別)



環境への配慮

- 洗って交換可能なパッドとFSC認証の森林に配慮したパッケージにより、**サステナビリティに配慮**
- 環境を考慮して**未塗装**
- ドイツで綿密に設計され、ルーマニアのゼンハイザー自社工場で手作業で組み立てられた**耐久性**の高いデザイン





さらに...

日本のプロユーザーからの要望にお応えし、
アクセサリとしてバランスケーブルも発売予定



型番	HD 490 PRO	HD 490 PRO Plus
品名	開放型スタジオモニターヘッドホン	開放型スタジオモニターヘッドホン 3m ケーブル付属
価格	オープン	
参考価格	66,000円 (税込)	77,000円 (税込)
発売予定日	2024年3月21日 (木)	
同梱品	製品本体、1.8mケーブル、 6.3mm変換アダプター、 ミキシング/制作用イヤープッド	製品本体、1.8mケーブル、 3mケーブル、6.3mm変換アダプター、 ミキシング/制作用イヤープッド、 ヘッドバンド用追加パッド、ケース
形式	開放型	
トランスデューサー	38mm ダイナミック型ドライバー	
インピーダンス	130Ω (1 kHz)	
周波数特性	5 - 36,000 Hz, 100 Hz (-10 dB)	
許容入力	300 mW	
音圧感度	105 dB SPL (1 kHz/1 Vrms) ; 96 dB SPL (1 kHz/1 mW)	
歪率	<0.2%未満 (1 kHz、100 dB SPL)	
コネクター	3.5mm / 6.3mm (変換アダプター付属)	
重量	260g (ケーブルを含まない)	

1.革新的なオープンバックデザイン

2.革新的な快適性

3.音楽制作での決断に確信を



革新と確信、2つをあなたに

Sennheiser
HD 490 PRO/PRO Plus

開放型スタジオモニターヘッドホン



SENNHEISER



User's feedback

「オープン型ヘッドホンの理想形です」



装着感

- ・軽量で装着した際の掛け心地が良い

デザイン

- ・耳元のケーブルがコイル状で使いやすい
- ・机に平置きができるのが便利

ミックスのしやすさ

- ・聞こえていない部分が聞こえる
- ・自分のミックスが悪く聞こえるような余地が見出せた

HD 490 PROはどんなヘッドホンか

- ・オープンでミックスしやすいヘッドホンの理想形



yasu2000

origami PRODUCTIONS のハウスエンジニアを勤める。
現在はorigami所属アーティストは勿論、Original Love、TENDRE、go!go!vanillas、WONK、YONA YONA WEEKENDERS、U-zhaanなどを手がける。

「空間オーディオ用としても超オススメです」



【HD 490 PROオープン型ヘッドホンを聴いてみても】

正直密閉型でないと、仕事でのモニタリングは厳しいかとも思っていたのですが、簡単に覆されました。むしろPA現場のような大音量下ではない限りこちらの方が自然で長時間でも疲れないので良いと思いました。思っていたほど周囲の音が、聞いている音に与える影響は少なく、HD 490 PROほどの音圧が出るならPA現場でも使えるのでは？と思う程で、周囲とのコミュニケーションのことも考えるとありだなとも思いました。

【音質感】

リファレンスに使えるフラット感、癖の無さ。音色のイメージがNUEMANN NDH-20と非常に似ているなあと。オープン型なので低域はどうかと思ってましたが、密閉型NDH-20が24Hzぐらいからしっかりと出てくるのに対して、27Hzぐらいからはしっかり出てきます。（その下も無いわけではありません）参考までにAirPodsMaxは高域が8kHzぐらいから上がっていて低域も少し多めで音のイメージとしてはフラットな感じより少し押し出しています。

HD 490 PROはF特というよりも聞こえ方がフラット。（実際F特は、2-3kHzにディップがあり高域は緩やかに下降しているのが、気になるピークなどは無く、耳的にはフラットに感じる）

ちなみにリスニング用途のAirPodsMaxは最大音圧（音量）に制限がかかってリミッターによる歪みが出ますが、HD 490 PRO、NDH-20はプロ用途なので、十二分な音圧（音量）まで歪率少なく出てきます。

【映像】

NDH-20は奥に広く感じ、HD 490 PROは横に広く感じます。AirPodsMaxはその中間でした。その分2ch MIXの音源を聴くとボーカルなどは3機種の中で一番近くに感じます。（といってもほんのわずかの差ですが）

【イマーシブプロセッサによるバイノーラルでの試聴】

HD 490 PROとAirPodsMaxは耳横100度の地点を超えて後ろに音像が行った時、後ろと感じましたが、NDH-20は前に行ったようにも感じる。バイノーラルとスピーカーからの音を聴き比べた際、イメージが似ているためスピーカーから音出せない夜などはHD 490 PROを使ってヘッドホンにてミックス作業を続けるも可能だと思いました。



橋本敏邦

和歌山PA会社T-SPEC代表/サウンドエンジニア
全国初となるライブハウスでのイマーシブオーディオ常設ライブハウス「福山Cable」のオーディオプランと、現地でのイマーシブ・エンジニアを担当する。自社倉庫内に「LIP-ROOM」を開設。日夜ライブでのイマーシブオーディオ「ライブイマーシブ」の研究や普及に取り組んでいる。

<http://www.t-spec.co.jp/>

次のページに続きます。



前のページからの続き

【イマーシブプロセッサーによるバイノーラルでの試聴】

HD 490 PROと AirPodsMaxは耳横100度の地点を超えて後ろに音像が行った時、後ろと感じましたが、NDH-20は前に行ったようにも感じる。バイノーラルとスピーカーからの音を聴き比べた際、イメージが似ているためスピーカーから音出せない夜などはHD 490 PROを使ってヘッドホンにてミックス作業を続けるも可能だと思いました。

【ケーブルや本体について】

NDH-20はカールコードとストレートコードを取替可能だがどちらを使うか悩む。AirPodsMAXは、Lightning to ミニステレオの細いケーブルで有線接続出来るが、ケーブルは選べない。その点、HD 490 PROは一部カールという気の利いたケーブルが添付して（1.8mと3mのラインナップ）これ1本でOKといった感じです。

NDH-20、AirPodsMAXもそれぞれ良さがあるが、NDH-20は結構大きく、さらにどちらも約390gと重い。HD490PROは260gと持った地点で軽く、頭を動かしてもズレるようなことは無くとても良いです。

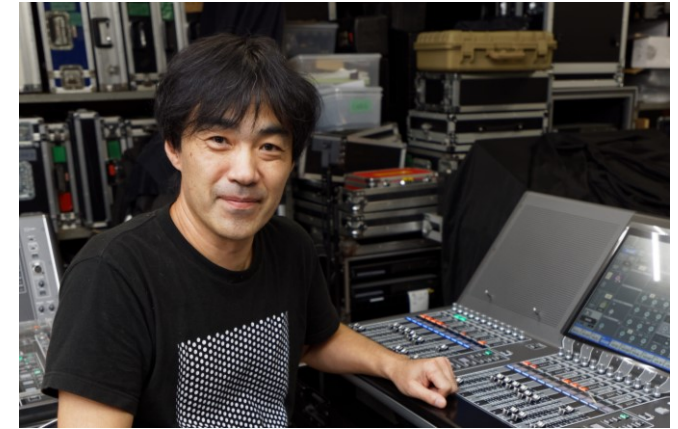
HD 490 PROはイヤークリップを簡単に取外し出来、洗浄することも可能なので、清潔かつ音色変化を防げるのではと思います（洗って無いのでわかりませんが、、、）そして2種類のイヤークリップが付いていて、ミキシングの際使うフラットな特性とリスニングに使える少し低域が増えた特性の2種類の音色と耳ざわりが選べます。耳ざわり感はカジュアルな見た目のMixing Ear Padsが好みですが、どちらも長時間着けても大丈夫そうです）

【添付のMIX-SEについて】

Wavesのものと聴き比べましたが、長時間聴き比べていないので、レポートはまた後日とさせていただきます。同様のことがプラグインで出来るのは確認出来ました。

【総評】

仮に悪く言えば、超驚く何かがあるわけではなく、何十万円もする超高価なスペシャルなヘッドホンというわけでも無いかもしれませんが、普通の音が普通に出てきてリファレンスヘッドホンとして！長時間着けても大丈夫なリスニングヘッドホンとして！空間オーディオのミックス・確認用としても超オススメ！として持っていたいヘッドホンです。



橋本敏邦

和歌山PA会社T-SPEC代表/サウンドエンジニア
全国初となるライブハウスでのイマーシブオーディオ常設ライブハウス「福山Cable」のオーディオプランと、現地でのイマーシブ・エンジニアを担当する。自社倉庫内に「LIP-ROOM」を開設。日夜ライブでのイマーシブオーディオ「ライブイマーシブ」の研究や普及に取り組んでいる。

<http://www.t-spec.co.jp/>

「キレのある低音と明瞭な高音」



充分かつキレのある低音と明瞭な高音、なのに軽量で、耳を圧迫しない装着感が魅力です。

音の輪郭がはっきりしている為、定位や空気感も見えやすく、スピーカーを使用している感覚にも類似しています。

小さい音量で聴いても、聴感上の周波数特性がほとんど変わらないことも、重要で嬉しい特徴です。

小さい音やリップノイズ、歪みにも敏感で、モニターヘッドホン固有の役割もしっかり果たしています。

HD800、HD800Sと愛用してきましたが、後継として使用していくつもりです。

追加コメントとして、HD 800, HD 800Sと比較して

- 着け心地がよい（※非常に重要）
- モニターヘッドホンらしくフラットに聴こえる

という事でした、今後はHD 490 PROを使用していく予定です。



加賀美喬貴

ミックス・レコーディングエンジニア
岡崎体育、崎山蒼志、ときのそら、なとりさ
な、森大翔、flumpool、GOOD ON
THE REEL、Hello Sleepwalkers、
ICEx、ONCE、
THE ORAL CIGARETTES、WEST. 等

「こんなにも低域がつかみやすい開放型のヘッドホンは初めてです」



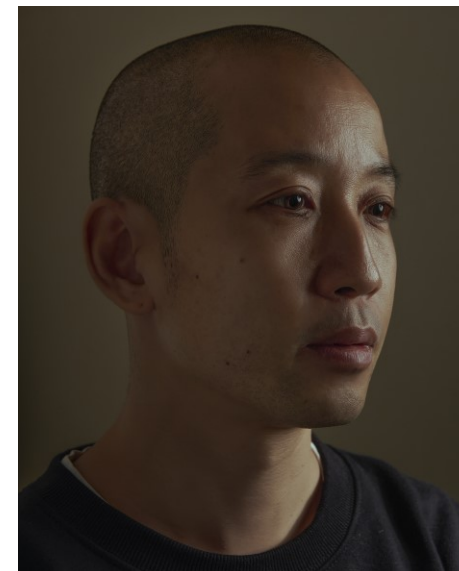
解像度の高さ、正確性に驚きました。
音の隅々まで顕微鏡で見渡せるような印象です。

元々、開放型は低域の量感がつかみずらいので苦手だったのですが、HD 490 PROは密閉型の量感、開放型の解像度や定位を併せ持つるように聞こえます。

こんなにも低域がつかみやすい開放型のヘッドホンは初めてです。

付属のイヤークッションでサウンドの傾向を変えられるのもよいですね。

自分は低域の押し出しがあるベロアの方が好みでした。



ArmySlick

作編曲家として、数多くのプラチナ/ゴールドディスク、オリコン1位を獲得。

AAAに提供した「愛してるのに、愛せない」が、第57回レコード大賞優秀作品賞を受賞。

E-Girls、AAA、私立恵比寿中学、宇野実彩子、大原櫻子、藍井エイル、逢田梨香子、NEWS、TrySail、石原夏織、=LOVE、アイドルマスターシャイニーカラーズ、V6、乃木坂46、SMAP、BoA等の作曲/編曲を手掛けている。



動画コメント（限定公開）

<https://youtu.be/YdNwnAA9GfQ>



甲斐 俊郎 Toshiro Kai Recording Engineer

Sony Music Studioにてキャリアをスタート。アウトボードやコンソールなどのアナログ機器と最先端のデジタル機器の両方の長所を駆使したミキシングスタイルが信条。これまでに、いきものがかり、スキマスイッチ、古内東子、YUKI、中島美嘉、Moumoon、川崎鷹也、菅田将暉などの諸作で確かな手腕を発揮している。

「使ったその日からミックス用ヘッドホンのスタメンになりました。」



装着時のフィット感、軽さにまず驚きました。
音の立ち上がりや高域成分の粒立ちが抜群によく、当然ながら低域も見えやすく処理しやすい感じで、クセもなし。
使ったその日からミックス用ヘッドホンのスタメンになりました。

ヘッドホンでないと分かりづらいところがきちんと分かるので、モニターヘッドホンとしてとても優秀だと感じています。

ピーク音の耳に痛い部分、処理が雑な部分、低音の質感と出具合など、正直に再現してくれる所もとても気に入っています。



福田 聡

レコーディング／ミキシング・エンジニア。
Funk, R&B, Hip Hopに根ざした音楽作品をトラック曲バンド
曲問わず手掛ける。
バンド1発録りは生きがいのひとつ。
オフィシャルHP : <https://satoshi-fukuda.jimdofree.com>

「まさにこんなヘッドフォンを長年待っていました」



結論からいうと HD490で制作してモニターミスは無いと思える信頼できる相棒になると思います。

HD600シリーズのバランスの良さを残したまま、レンジを広くしたイメージ（特に低音部分）ですので誇張された所もないですし、リバーブエンドなども掴み易く、開放型ですが、リップノイズやテイクのつなぎ目の確認もしやすく感じました。

ここが凄く強調したい所でもあります、同社のなかでは歴代1位の装着感です。

音質を重視した上で軽いだけでなく、私のような普段メガネをかけた人向けに適度な溝までついています。（はっきり分かるレベルの溝ではないですが）

サングラスやメガネを装着しているときにヘッドフォン作業の気持ちの悪さが改善されるというのはこれまで他社を含めてなかったですから。ぜひメガネをかけた状態で店頭などで試着して頂きたいです。少しの工夫でここまで変わるのかと驚きました。

全文はこちらより↓

<https://www.altphonic.com/post/sennheiser-hd490-pro>



山根アツシ（Altphonic Studio）

（JASRAC会員、日本レコーディングエンジニア協会所属）
アーティストとしての活動の他に20年近くのエンジニア、プロデューサーなどの経験を持つ。2016年よりドイツのベルリンに移住し、本格的なスタジオを構え、海外アーティストの作品に参加。同時にテクノやクラシックの本場にてアナログレコードの製作技術を学び、マスタリング、カットtingを手がける。2019年より帰国し、日本では数少ないカットtingエンジニアとして活躍。また近年はレコードだけでなく Dolby Atmosのミックスマスタリングも積極的に取り組む、また Apple Digital Master認定スタジオでもある。木村拓哉、ASIAN KUNG-FU GENERATION、向井秀徳他、LOVE PSYCHEDELICO多数のアーティストのレコードカットtingを行う。

「良くない音は良くないと断言できるモニターヘッドフォンです」



私にとってヘッドフォンはメインモニターと同じぐらい重要な機材です。ゼンハイザーはHD650を愛用していますが、私の耳には低域が少なく、音の輪郭が少なく感じていました。

1年前HD490のプロトタイプを聞かせていただいたときは、HD650の流れを組む音像で、その辺りの事を話させていただきました。出来上がってきたHD490PROはその辺りが解消されて、全くの別物になっていました。多くのユーザーの意見を取り入れて、最後の開発をされたんだと思います。

開放型なのに密度のある低域で、量感をつかみやすく、中高域も明瞭、これで良くない音は良くないと断言できるモニターヘッドフォンです。

まだ数日しか使っていないので、正確な事は言えませんが、私の1番好きなヘッドフォンを超えたかもしれません。使い込むのが楽しみです。



森元浩二

エイベック・エンタテインメント
のゼネラルチーフエンジニア

日本レコーディングエンジニア
協会副理事長



Thank you !

Sennheiser
Group



AMBEO



MERGING

